WASON
HQ
1104
J74+

明治十九年十月五日發行

毎月三回發兌
一冊正價五錢
一ヶ月十五錢

女學雜誌

第三十七號

東京 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Women's Magazine

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 37. 第参拾七號

EDITORIAL: The Ideal freindship between man and woman.

LEADING ARTICLES: Our sisters in Japan: No. II, by Mrs. Mary C. Leavitt; A word to gentleman (concluded), by Mrs. T. Nakashima.

MISCELANIES: A word of caution to Ladies concerning western costume; On Conversation.

CRITICISM: Mrs. N. Shindo's "Joshi-Hitsudoku" (A work which every woman ought to read).

BIOGRAPHIES: Florence Nightingale: No. III; Baikōjoshi: No. XVII; Mrs. T. Kimura; Real story of Komachi.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

ADVERTISMENT.

●社説 男女の間は兄妹の如くあるべし

●叢話 洋服着る貴婦人に告ぐ○會話の心得○いへのとも

●批評 進藤直温君の女子必讀

●論説 日本の姉妹に告ぐ其二(レビット夫人)○男子の注意を望む其二(中島とし子)

●佳傳 ナイチンゲールの傳第三○梅香女史の傳(第十七回)○木村鐙子の傳第三○小町の實説

●寄書 詩二○英詩一○裁縫すゝめ歌

●新報 十三則

●廣告

○笑ひ草

○或人再拜頓首して哲學者ゼノに問ふて曰く世上の賢者尚ほ愛着の念ありや夫子如何んとなすゼノ曰く賢者もし愛なくんば美人何如んせん

○昔し辨慶が楠正成の方へ兵粮米を借度よし申越したる書を所持せりと云へる人あり傍の人難じて申すそれは大なる時代違ひなりとみな〳〵笑ふ持主大に怒りてさればころ世にまたなく珍らしき物なりとていよ〳〵大切にひめ置きしとか唐土の諺に宋板の大明律と云ふとあり吾邦にては道風の朗詠集などかゝる類むかしよりいと多し

○樹の上に蟬ありて露を吸はんとす後に蟷螂ありて之を窺ふ黄雀また其脊にありて蟷螂を窺ふ童子樹下に弓を彎きて黄雀を射んとす後邊に溝堀ありて身を過たんとするを知らず

○久米の仙人は布晒す女の脛の白きに通を失ひ朝寛上人は京極の御息所に玉の緒と珠數をきり三諸の山の大物主の神も戀の苧環くりかへされて倭迹々日百襲姫命には匙を投げ玉へり

女學雜誌　第參拾七號　明治十九年十月五日

●社説

〇男女の間は兄妹の如くなるべし

當今女學甚だ隆んとなりて從來の教は全く一變せり例へば今日男女交際の説行はれて女は家内にのみ隱居す可らずとなし夜會宴會にも出席して數多の紳士上流と交るべしと云ふ最早や女子を小人と並べ見て之を近く可らずと云ふものはあらず又た今日女子教育の論行はれて女は昔しの如く何の智識もなく暮らすべきにあらずとなし小學中學の業を終へて大學にも入らんずる覺悟あるを賢しとす最早や女に才なきを以て其德とする論者もあらざるあり其外女子も亦た獨立心あるを要すと教へて三從の心得を破り女は邦家の母なりとあがめて之を罪業ふかき者とし輕んずるとなし左れば吾人が前號に於て精しう形容したる如く今日は孔子釋迦の女教全く廢れて恰も女學の維新とあれるときと云ふべき也

然らばかゝる從來の教に代はりて新に女の心得と定むべきは何如なる教ぞと云ふに吾人が前の號に於て論じ初めたる如く當今歐米の文明國にて女の教とするものを之に當るの外ならじと思ふ但し玆に注意すべきは吾人かく歐米當今の女教を我國にうつしたら考ふると云ふとも今まかの國々に行はるゝ有樣をば其儘に我國へ流行せたしと望むにあらざるの一義あり吾人はかの國々の人が女の教として尊む所のものを以て亦た吾國向後の女教となさんとを希ふ然れども今まかの國人がこの教を濫用して多少の弊害をひきおこしたる其誤をも直ちに我國に行はらせんとはゆめ〱思はざるとなり例へば今日西洋の女風を否む者の言葉に彼地には女が男を下に見て妻は夫を追使ふの風ありと云へる如き多少は其理ある反對にして吾人も常に之を不平とする所あり啻に吾人が之を不平とするのみにあらず彼の西洋の女等が其身の教として尊む所の女教にありても亦之を不平とする所あらん何んとあれば其所云る女教には決して斯る行を許さず女は何所までも溫和よありて男の保護をうくべしと教へたればあり故に吾人は此教を吾國よ用ひたしとこそ思へ此を濫用してその弊よ陷りたるあやまりをば習はんとの望毛頭あらざるとあり

蓋し當今歐米よ行はるゝ男女間の取なしは固と男が女を保護そると云へる教の原理に從ひたるに因るとあらん女は進化の學より見れば發達の少きものあり古今の經歷について考ふれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ば尙更に開化の少きものなり子を生むと云へる役目ありて到底男の如く勇壯となれるまじきものあり左れバ男子たるもの彼の躰よハく心よハき女流をあハれみて之を保護するハ至當の心得にて實に文明の本色にかなひたる善行あり東洋從來の敎の如く女は智慧淺きものあれバとて之を卑しみ女は躰弱きものなれバとて之を輕しみ强弱を壓するを專らとして女をたゞ男の婢と見たるは眞に文明の低き國々にのみ行はるべき道なるべし故に苟くも眞正の開化を望ミて人權均一の愉快を樂しむ者は是非とも强き者弱き者を憐みて之を保護し之をしていよく〵進化發達せしむるやう取扱ふと尤なる心得なり故に西洋の敎に於ては斯る心得を其道となし男子ハ女を愛すべし夫ハ妻を愛すべし女は男に依賴るべし妻は夫を敬し且つ愛すべしと定めたるは實にこの高尙なる眞理にかなひたるものあるべし然るに當今歐米に行はるゝ實際の女風を見れバ此の明白なる眞理を誤解し男子の親切を濫用したるの弊多しと云はざるを得ざる也

西洋に於ては男子たるもの女の前に於て煙草を喫せんとき先づ其女の許を得さる可らず、、男女共もに道を步むときハ男子其腕に女を椅らせて之を讓らざる可らず、、夫婦ともに步めバ行くも止るもその權を妻君に與へざる可らず、、室に入てハ夫ろの上席を妻君に讓らざる可らず、、客の挨拶するや之を妻君に先にせざる可らず、、共に食ふや女の爲に介抱せざる可らず、、甚しきは妻君の靴をあほし楷段を登らするに其後方を押さゝる可らず此等の事今ま習慣上の定例とありて男子も心に之を爲ざる可らさるの禮と心得女もかゝる取扱を受けざれバ之を男子の失禮と做すべし故に歐米の女子のうち往々は口に出して之を失敬ありと咎るあり稍や道を心得たる女は斯るとなしとも尙ほ此樣の取扱を心に不快と覺へて密かに彼を禮なき暴し男ぞと怨むはをしなべての有樣あり此れ豈に大なる誤あらずや其初を言へバ男子が女にかゝる親切の取扱をなそと全く女のかよはきを保護するの主意に外あらず女たらんものハ喜んで其親切を謝し斯る取扱をうくる度ごとに心中をそるく〵之を受くるの心得なかる可らず然るに習慣の久しきより彼が親切の取扱を當然の行の如く心得男も亦たその初を忘れて只だ女に附き添ふ樣のさみしき覺悟となり双方ともにわやまりて遂に當今歐米に行はるゝ程の女風をも生ぜしとあり故に吾人が今かの國々の女敎を吾國に行ハらせんとを希望すると共に尤も强く主張すべきハ此の一義なり希くハ世上の男子向後久し

く大和魂を所持して女に追從するの卑屈を學ぶ勿れまた世上の女たらんもの是迄久しう輕蔑されたるもの丶今かゝる厚遇をうくると全く男子の親切に出ると心得ゆめ〳〵驕りたかぶるの念ある可らず斯てこそ歐米に行はるゝ女敎を眞正に實行するは彼國の婦人にあらずして反てこの日本の女子なりと評し得るの日あるべし

此故に吾人が男女間の心得となしたく希望するの極理は即ち世上の男女をして皆な兄妹の如くあらせんとの存念これあり兄は妹よりも早く生れたり躰も強く學文も多くしたり然ればとて其妹を輕蔑し權力を弑ぐなんどの心なきは勿論なるべし眞正の愛を以て妹を愛し妹も亦た眞正の愛を以て兄を愛し且つ之を敬し純粹潔白の交際中に無限の和樂平和を交へて相愛するとこれ世の男女が互に取扱ふべき心得の雛形と云ふべし世上の紳士貴女希くは此樣の交わらんとを望む大凡そ事物の變は乾より坤にうつるものなり故に吾人は今ま日夜女權の伸張に盡力して餘念なしと雖も之と共に女權の濫用されんとを恐るゝや亦甚だ切なり吾人は世上の男子に對し女子の爲に熱心代言すべし然れどもまた日本男子として敢て女流の驕慢を責るに容謝あらざるもの也

●叢話

○洋服着る貴婦人に申す

西洋の女風ふき入りてより女流の改良となれるもの數多ありされバ吾人は此上にも日に〳〵つとめて西洋の女學を輸入せんと希望するとなれどもさりとて彼國にて惡しき風俗とするたぐひをわざ〳〵我國にはやらせんなんどの心得は毛頭これなきなり今まぜンソク病みがぜい〳〵と喉をならして痰を吐出でんに人は之を見るも心地あしゝとすべし況んや此の痰を嘗むるをや犬か豚か鳥の類ならずバ人間にて之を試むるはあらじと思ふ然るに西洋のぜンソク病と云ふべき惡風俗をわざ〳〵我國にはやらせて其痰を嘗めんとは心あるもの丶決して爲すまじきとなり近來しきりに流行する新風俗のうち吾人が心に不快の極と思ふものも尠からねど今ま其一として玆に申したきは彼の洋服きる婦人たちが胸のあたりを固くしめて瓢簞なりの形につくり昔し楚王によろこばれて腰を細くしたるが今は腰を大きやかにして胸をパリスに移さんとする所云るタイトレーシング(Tight Lacing.)の弊害のことなり

昔し佛蘭西にキユビーエと云へる有名の學者ありけり或る日一貴女を伴ひて郊外をそゞろありきしたるとき野面にさける

美しの花を見て之に云ふやう君さきには此花の如く美しく居ませしに今は顔色も青ほざめ御躰もかくかよハくなり玉ふと何如なるゆへぞと知り玉ふや君明日もし再び茲に來りて觀玉ハゝそのゆへを悟り玉ハんと云ふ貴女あやしの事に思ひて歸りたるが明日またキユビーエと共にかの處におもむきて見るに此は不思儀なる哉昨日艶に笑ひて姿のいと心地よかりし花ハ今ま何となう志ほ垂れて花の模樣も面白からず見へたり貴女驚きて先生此は何の故に候ぞとあやしみたればキユビーエ彼の花草の莖をみせて云ふ昨日われ斯の如く固く糸にて縛り置きたれバ養液のめぐり自由ならずさてハ斯の樣に衰へたるなり君前日の艶色を失ひて今かく青ざめて居ますと皆かのコルセットを固く志めて血液の循環を自由にさせ玉ハざるがゆへありと敎へたり

凡そ飾の爲に少さかの不都合をしも顧みざるは人情の常と云へど西洋にて昔しより一種の弊害とし憂れふる風俗をまねてわざ〳〵縛りたる花の如く衰へ果てんとするは甚しき愚ならずや凡そ格好と云へるは目になるゝより何如やうにも思ハるゝなれバ今ま新に洋服を着なし玉ハんずる貴婦人方は初めより彼の縛りなるものを全く廢し日本婦人の洋服には胸のわたりの左程に細からぬをよしとすと思ハするやうの流行をつくり出で玉ハんことを希ふ彼の東洋に美人と云ハるゝ毘沙門は腰小くして胸固より細し西洋の毘沙門とよバれたるベナスも其像を見れば胸下の細きやうにも覺へず左れば今西洋に行ハるゝやうコルセットを固くせざれバ女の格好を損すると云ふにハあらじ况んや楚王の御好行ハれて細腰をよしとしたる我日本には瓢簞なりの樣姿必しも好ましきにあらざるをや故に今率先して洋服着玉ふ方々は何卒自ら制して彼の西洋の痰を嘗るとをやめ日本婦人洋風の樣姿と云へる新風俗を新につくり玉ふべし然らずして若し彼の縛り着けの風を學び玉ハゝ衛生上の害毒恐るべきものありなか〳〵に野草の志ほたるゝ如きの比にハあらざるなり故に今まその害毒のあらましを左に說明し此よりして何如ほどの病を起すべきやを示申さん(未完)

〇會話のこゝろえ　（第一）

人間が牛馬犬猿の類より異るは何故ぞ、こはいろ〳〵の優れるところあるが爲なれども或學者の說によれバ其の談話を爲してよく思ふ所を述ぶると得ざるとの相違にありと云へり此れ一應は尤なる理屈と云ふべし實に吾が心の中を言の葉に寫し出して思ふ所を人に知らせ互に胸臆をさとり合ひて相ひ親

睦するほど樂しきハあらざるなり昔し支那の物知りの論に大凡そ物其平を得ざれバ鳴る絲竹管絃の鳴るも平ならざるがゆへあり人の言語に鳴る如き亦た不平なるが爲めなりなど言へるハ大なる誤りと云ふべし人間もし考ふる所あらバ必らず之を口に述べざるを得ず心に樂しき所あらバ口に話さゝるを得ず何事につけもし之を口にせざれハ反て腹のふくるゝなれ只だ口に箴して言葉を少ふせんとするころ最上の不幸と云ふべし○然るに我國從來の僻として徒らに言葉を少ふするとのみを教へ沈默は百言にまさるなど申して人の心地よく會話するとをすゝめざりしは大なる心得違ひなり西洋人は之と相違し會話を人生最大の樂として之を尊むと一種の寶の如しゆえに平常ろの術を心得て人と相談ずるに妙をきハめ二人相あふときハ談緒混々として流れ出で共に樂しむと涯りなく談後互ひに活潑に覺えて久しく其味を忘るゝあたハざるの思ありと云へり此樂は日本人に尤も少きとにて其多數ハ未だ嘗て斯味を知らざるものと云ふべし故に日本の人の相會するや隣人も猶ほ敵の如し西洋人の相あふや初面の人も猶ほ舊識の如し是れ東西の交際の大に相違する所なり例へバ洋犬と和犬を見るべし今ま東京府下などに純粹の和犬と云へるは甚だ稀なれども少しく田舍の地方に入れば彼のむくつけきを見ると何いと多し其犬等が旅人を見れば恐れをぢて高く吠えたけり又は脊をそびらかし毛をたてゝ牙をあらはす摸樣あはれと見るも尚ほ可笑しき程なりまして其知らざる同類の犬など來らんには嚙みつくにあらずんバ逸早く逃げ走りて遙かに吠のゝしるなり人にも同類にも相親しまんなどの氣色ゆめ〳〵あるなし之に反し洋犬の人を見るや頭をひきくし耳を垂れ四肢を平にしてハらバ乍ら尾を振りて喜び近づき或は飛びかゝり嘗めあまゆるさま何如にも愛らし又未だ知らぬ同類來るとき早やく相なれて遊びたハむるゝさま見る目にも喜バしき風情あるとなり西洋人の相會するさまと我邦人の相あふさまとを比れバ遺憾ながら此等の犬と同樣の關係ありと云ざるを得ず而して其交際の何が故に彼に溫かく我にハかく冷かなるやと云はゞ其元因多くは會話の巧みなると然らざるとに因るとなり故に吾人西洋人と相ひ談ずる時は常に此感あり大凡そ外國の人と交はりたらん者は孰れも皆な此經驗あるとなるべし

今ま宴會ありて數多の友人知己相集れりとせん敷山海の珍味前に並び糸竹の音間に起り舞妓遙に踊り花火庭の面にかゝやぎ饗應其完きをつくしたりとも玆にもし愉快にして且つ自由

なる談話の客と客とのうちに行れるゝあくば何となら物足らぬやう覺えて心地生々とせず宴了りて歸る途すがられたゞ獨り心に問ひ答へて自ら腹ふくれたるの思あり反つてこれ何の日にや一二の友人とうちくつろぎ寢ねがてに取と留まらざる物語したるの更に樂しかりきやう暮れるゝものあり斯ありては切角主人が馳走したる本意を達せず客の身にとりても寶の山より空しく歸りたるやうの損ありと申すべし此際もし話上手の人ありて最と心地よくわれゐ話しかけ人々をそらさゞるやうにして自由に會話せしめたらんには其樂何如斗りぞや歸路思ひ出して獨り笑む程の愉快必ず之あらん會話の上手下手にて人生の樂にかゝる相違あらば其術をまなぶとは中々に輕ろんず可らざる大事あるべし。ことに近來は交際いよ／＼盛んとあり家に隱るゝを仙人と心得る昔風は全く失せ夜會に呉越の人相ひ會し踏草の宴に南北の客ともに手を握り朝に主人となつて客をあいしらへば夕べは自ら客と爲りて人を見舞ふなど出入往來の最としげき今日とありては昔日の沈默主義到底行れる可らず之を行ふは大損あり人間最大の寶を全く投遣にするの愚は決して開化人の爲すまじきとなり

然るに此の會話の術をこゝろうるとは取分け當今の女流に大切あり女三人よれば姦と云ふほどによく辨ずるが女の常にて大抵の學者は女を言葉の人とも辨説の得手者とも申すほどなるが今の女は女同士にてころ姦しきこともあれ男子の前に出でゝは只だ顏を赤らめて運りに頭をさぐるのみ其外に半句の言葉もあきが通常なり又女同士はかくもよく相話すとれ云へ其話たるや多くは世辭あり世辭あらざればウハサなり大したる面白き話とては甚と少きゆえ此もまた會話の爲に愉快を覺ゆると云へる樂は決てこれあし挨拶と用事を濟して門を出ればホット息して心を安んずる程が今の女の眞情なりと云ふべし故に會話の術に尤も巧なるべき女流の如きも當今の所ろ全く其心得を知らずと云ふべし甚だ歎ずべきとあり。今ま交際ますく行れんとし特ゐ男女のまじわりも追々に開けんとする時世にわたり斯ては交際の眞味も得味れまじよりて此より會話の心得のあらましを說き人々をして一種の寶を得るの途に至らせん爲め小補あらんとを希ふ(未完)

○いへのとも

答の部

○五の答　其良人たるもの仕官して何不足あく今日を送る時れ妻君れ近所隣を話し歩き或れ唯伸欠して空しく月日を送るの

習慣ある今日にあたり至極よき所に御心附なされ候元來男子ハ外を務め女子ハ内を治むるが其役目に候へバ家事經濟學を研窮して家政万端を一身に引受け夫君ハ家事の御心配なく外に力を盡し經營し玉ふやう心掛玉ハヾ他の技藝ハ御修業なくとも事足り申べく候此學を御研窮なさるにハ必ず學校へ御出になるにも及バず好き書物によりて御志らべなされ又老練家にたよりて御聞被成候へバ十分御練達成さるべく候又夫君の愛兒即ち其兒を教育するハ妻君無上の重任に候まゝ他日御子持となり玉ふの時の御用心肝要に候されバ日夜となく子供の育て方を御稽古なされ他年有爲の英兒を膝下に御養成なされ候ハヾ夫君へハ妻たるの道を盡し社會へ對してハ女子の面目を施し得らるべしと存候之によりて今日の御修業ハ以上の二科にありと知り玉へ（磐城東白川郡竹貫、蘆野なすか）

編者附言。此二科を學び玉ふにハ進藤直温君の女子必讀及び開發社の女子家政學等よろしからん

六の答　手にもまで奇麗に洗濯するとは難義なる質問に候へども先づ大抵其望に應じ得べき方ハ下の如し即ち洗濯すべき衣服を前夜より冷水にひたし置き今朝となりて善く志ぼり大鍋に水を入れ衣服の多少によりてケローセンをコップに半杯位ひ混合しよく煮立てたる中へかの衣服を入れまた洗濯石鹼半斤餘を薄く刻みて入れ廿分間ほど煮るべし此間始終まぜかへしてゴミを流すべし斯てのち取出せバ大抵ヨゴレは取れなん之を二度ほど清水にてよく洗ひ掛竿にほすべし是れ即ち手にもまで十分きれいに洗濯する法なり（編者）

七の答　母刀自の御心配さもあるべきことに候へ共男女早婚の衛生上にも經濟上にも大損なることハ今日一般人のいふ所にて定めて御承知なるべし又御娘子が多年の御勉强にて折角學校も卒業し玉ひしを實地の役にも立て玉ハで早く已に人に嫁し玉ひ子持にても成り玉ハヾ有爲の學識や可貴の光陰ハ空しく子供のもりとむつきの洗濯位に消へ申すべしかくてハ多年の御辛苦も書中の餅と同樣に候ハずや且又娘子の二十を超ても緣附ざるをバ不具者か何ぞの樣に云ひなして笑ひ嘲るハ我邦是迄ハ女子の年紀漸く三五或は二八位小供ながらに婚姻するの惡風習ありしより起ることにて素より御心配なさるに及バず愚夫愚婦の笑をうけ玉ふより識者のなげきを起さしむるとをこそ心うく思召し玉ハずや西洋の伊太利佛蘭西など申す國々にてハ男女婚姻年齡ハ大抵二十八九三十位と聞及申候されバ御娘子の御見込ハ至極御尤の事に候まゝ其御心まかせにし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

玉ふ方可宜存候（磐城國東白川郡竹貫、蘆野ますか）

○八の答　御簾中とは御簾の中におわしましてかろ〴〵しく人に見へ玉はぬ意を云ふなるべし。奥さまと云ふとハ古くなし簾中と云へると同樣の意味にて但少しく下れるものなるらん。上さまと云へると古今の相違あり女官飾抄の奥書、蜷川記、などを見れば公方の御臺所を上樣と云へると通常なり然るに近世は賤き者の妻を人より稱じて云ふととなれり。女房も古は妻に限らず品位よき女の事をすべて云ひたるなり源平盛衰記の覺岐判官鎌倉にて手鼓うつ段に女房男房こゝろを澄し落涙すると多かりけるとある程なり然し後には妻のとをなべて女房と云ふととなれり。新造とは妻を迎ふる前に新に家を造ると云へる禮より言初めたると歟。おふくろと云ふは后宮名目抄に母たる人を袋にならへ侍るは胎中に其子籠れる時袋の中にある如く侍ればなりとあれど笑ふべき說なり貞丈が考にはフトコロ轉じてフコロとなりフコロ又轉じてフクロとなれり薩摩の人が御懷樣などかくとありし如く母をフトコロと云ひしよりの變化ならんと云ふ愚考には福老ならんかと思へど未定の考なり（編者）

○九の答　我邦古來の弊風とて夫を撰び妻を擇ぶの權利を其子女に與へずして之を父母伯叔の手に握り彼娘ならでは娶るまじ彼人ならでは添はじなど云ふとあれば不義淫奔と責め叱り氣隨氣儘と罵り懲らし己が氣に入るか或は義理ある人とか云へば子女の承不承は無理やり壓しつけ強て婚姻さするてふ聞くも忌はしき習慣あるよりイヤナ良人に添て悒々月日を送るの不幸女あり氣に染まぬ妻に伴ふてイヤ〳〵暮らす可憐夫あり甚しきは木に縊びれ水に溺ぼれて全地球にだも易へ難してふ性命を塵埃視するに至る其源父母伯叔の專制に發す自ら殺すと何んぞ異ならん縱令しやさならぬ迄にもせよ家に和樂の良人少く室に悲怨の妻君多きは必ず以上述る所の弊習によるなり男女室に居るは人の大倫なれば女は自ら所天を撰び男亦自ら所托を擇びて婚姻すべし斯ありて後始て眞の愛情ある夫婦を生じ和樂の音雍々の聲室家に滿つるに至るべし夫婦は所云る生涯の道連にて苦樂憂喜を與にするものなれば義理の、譯の、手前の、など斟酌して居らるゝとかは氣に染まず心に協はぬものなれば一刀兩斷イヤと答て不可なきなり況して志ある人は猶更のとなり請ふ無名の愛娘よ心を決し玉へ（磐城東白川郡竹貫、蘆野ますか）

以上皆一應の答なれども同樣の問に再應答を寄らるゝも差

支なし親切の方は各思ふ所を答へ玉へ（編者）

問の部

十。至急御質問申度は此頃の今日新聞に彼の春の舎おぼろと稱へ玉ふ文學士坪内雄藏君が小説の改頁を促すと題して御論ありしうちゼヂエリチット女史（英國現存の大家）の事相見へ候が右は何如なる人に候や倘其外女に有名の小説家も有之候や乍憚早速御答を仰ぐ（購讀者、某）

編者云。急答を要し玉ふとのとゆへ御答申度が彼女史を何如なる人と云はゞ近代の大家ヂッケンソ。サッカレー。バルエル。スカット。あんどと拮抗したる著名の詩人、哲學者、且つ小説家と申すより外なし何れ後號に其傳を載する日可有之候。但し之を現存の人と申すは誤にて今を距る數年の昔し千八百八十年の十二月廿二日永逝せるとは隱れなき事實に候。專門小説家の事あれば春の舎君も知り玉はんが何かの間違に候べし。又有名の女小説家は前號にも相揭げ候が先ブミッセス、ブローニング。ミッセス、ビーチエルストウ。ミッセス、チリフハント。ハンナ、モウル。チヤーロッテ、ブロンテ。ゼヂヂ、サンド等の諸子と記臆致候

十一。當今早婚の害を述て晩く婚姻するを奨め玉ふ論者多く候が卅年ごろとありて初て婚姻せば子を持つの樂少かるべし概して日本人の躰の弱きは食物運動などゝ關するとにて早婚と云ふとゝ關するは少きかと存じ候何如（常陸江戸崎の花町よふ）

十二。十露盤は何如にして我國に持來されたりや又其時代は何比なりや（橫濱フエリス女學校の一女子）

十三。七福神の起元何如ん（同前）

十四。芝居を見物するは宜しきとに候や否や何卒御教示被下度いのり入候（一信徒の娘）

十五。妾こと幸に身もちと相成り此頃やう〳〵いわた帶とやら致し候此より後の心得方、又出產の日を知る方、產いたす比の心得など豫じめ承わり置たく候何卒御序のふし御帋面にて御教被下度ねぎ上〳〵（後の母親）

十六。相愛するもの互に婚姻せよ人のすゝめにのみ從ひて生涯の夫を定るは惡しゝなどの御教有之候へども妾等は自ら夫を擇ぶの便利とて無之かゝる身分にはわが愛するものとても御座なく候されバ何如なる方法にて夫を擇び申すべきや細かゐ御教を仰ぐ（一女生徒）

十七。私娘長の病氣やゝ快方に趣き候より醫師の御すゝめ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

により少しづゝ慰みの小說など讀ませたく存候娘によませて差支なく且面白き小說は如何やうの者に候や（永田町井上）

○十八○　食物の料理は多年の經驗にて色々の仕方を發明し玉へる方も數多有之ことと存じ候何卒かゝる御秘方を御もらしありて妾如き年若きものに御敎の程諸氏に委賴す（新宅の妻）

● 批　評（第十回）

(10) 女子必讀　中本一冊（三卷合二百八十三頁）定價五十七錢

此書は進藤直温君が其愛娘たけ子の夭折を痛歎し死後七日より稿を起して風日雪夜一たびも手を輟めず拮据凡そ一年にして初て成れるものと云ふ故に吾人が之を見る決して尋常一汎の書にあらざる也蒲生重章氏の序文に此書は女戒、女論語、女孝經、內訓、女今川等諸書の美を集めたりと大層に賞賛して今や主張洋說、悍然與男子相抗、牝馬之貞、邈焉不講、牝鷄之晨、恬然不怪などと不平ありたれバ悲しひ哉此書も亦たたゞ熱心の編集にして維新前の舊敎を墨守するものありやと思煩ひたるに讀去る三百頁のうち一言半句だも舊くさき漢學者の句調なく中には（女子の男子に異る所のものハ其性質の剛柔と其職務の內外とあるのみ決して男子ハ女子よりも貴く又女子ハ男子よりも劣れりとなすべきにあらず均しく是れ万物の長たり）などの文句ある程なれバ吾人の悅知るべき也

此書三卷に分ちて通計十五篇四百八十二章あり內訓、作法、治家、待客、の心得より兒を育つること、飲食物の事、料理の心得、衣服、住居、睡眠、運動、入湯、看病、など皆一々細密の敎ありて殆んど洩らす所なし特に文辭平易なるうへに假名をつけ給を挿まれたれハ大抵の女子に讀得がたき心配なきなり然れども此書もと子を失ふの歎に起りたるものなれバ第二卷育兒篇を初めとして事の凡そ衛生上、疾病上、に關れる條は特に精密をきハめたりといへど其他に於て少と不釣合ありと思はるゝ程に物足らぬやう覺ゆる箇條も少からず彼の學問の節に學問が夫を助るに効能あることを說かざる類、又は、心術行狀の節の餘りに混雜せる、起居進退の節の尤も不足せる、智育德育の節の倘少しありたきなどの憾少からず然れども此ハ只だ此書の非常に完備せんことを欲しての批評のみ此書を近代の姬鏡としたしとの思より申すのみ斯る良書の甚だ少きを思へバ吾人特に之を著者に謝せざるを得ず曩にひざもとの敎へ（第四批評）と云へる書あり今また此の女子必讀を得女學社會亦幸なる哉故に今ま書中に最可と見る章節の七八條を左に抄出して此書のあらましを示すべし

○母無學なる時は小兒の學校に於て覺へ來る所の誤を正し正しきを擧るヿ能はず又其小兒が何如なるヿを習ふて勉強なりしや將た勉強ならざりしかを知るヿ能はず又學問の談話をなすと雖も母が小兒の問に答へて其說明をなし兒の望を全ふして之を悅ばしむる能はず或は覺へ難きに困むとき之を勵し之を助けて兒の性質を強くするヿ能はざるなり上の八頁

○母が學問なくして敎育の法を知らざるより敎師が學校に於て子女の性質を矯めさんと欲し罰を與ふるなどのヿある時母も敎師と同じく之を戒め責むべきものなるに却て我兒の惡行を蔽ふて敎師の處置を誹るなどのヿありては假令敎師は日々に涙を流して懇に之を導くとも獨り其性質を矯るヿの難きのみならず小兒はますく\惡意をまし進めて遂に善良の人とならしむるヿ能はざるなり上の八頁

○母の一行一言は皆是れ幼兒の腦裏に印して性質となる者也譬へば笑顏温言を以て常に其兒に對する時は自然小兒に慈愛の心を與ふべく又容貌を和順ならしむ可し若し之に反して時々怒れる顏色を顯はし猛き言語を發して待遇する如きは其德性を害し暴惡なる氣質を生ぜしむるに至る上の二十四頁

此餘は次號に揭ぐ。又鈴木君の婚姻法論畧次號に批評すべし

● 論說

○日本の姉妹に告ぐ　（其二）

萬國婦人禁酒會書記　レビット

紳士常に云く女子若し高等の敎育を受くる時は遂に女流に固有せる美質を失に至らんと然れども事の實際は全く反對せりかの大學校專門學校等に女子入學を許す所に於ては女にして非常の名譽を博し又例外の賞贊を蒙るもの尠からざるなり人また或は云く女子にしても久しく修學せば必らず其健康を損すべしと然れども之もまた實際に相違せり大學々生のうち身躰の健全なるは反て女子に多きの比例を見得るならん此頃大學を卒業せんとする一女子妾に語りて云く女生徒が男子にまさりてよく學び亦た男子よりも疾病の少きものは妾等が時と力とを儉約して男子の如く之を浪費せざるが故なり妾等日く々新鮮の空氣中によく運動して後ち室に入り適宜の時間勉學し其後は寢室に退きてよく眠り朝とく起出るを常とせり如此く定めて虛日なきが故に學あがり躰も亦健かなるを得るなりと而して此等の女生徒はかの酒類を決して口に味はざるものなり然らば此人々は煙草を喫するヿありや曰く決してなし其中の一人が卷煙草を解釋して卷煙草は煙草を卷き丸るめたる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ものあり其一端には火を點し他の一端には愚を荷へりと云へるによりて知るべし妾は此評の甚だ可なることを熱心に主張すると共に敢て問ふべし日本貴婦人の唇は果してよく煙草を以てけがさるゝことなきを得るやと

女子もし完全の敎育を受けて其心性を十分に開發せバその爲し得べき職業もまたあるに至らん上は博學の敎師ともなり下は其外の万事をも取扱ひ得べきこととなり例へば亞米利加及び英國に於ける數百の女醫は皆な好結果を得て凡そ子供及び女流の病床に臨むべき醫師は特に女子をよろしとすることを證明せり思に女醫がその治療を成るべく斯る仲間の人に限るは宜しきことなるべし、又亞米利加にてハ現今廿餘名の女子代言人と爲て法庭に臨み法律上に要する諸種の事件を皆よく取扱へり但だ未だかつて判事となれるの女子なきものハ女流が之を爲し得ざるに非ず法律の之を許さゞるが故のみ故にワイチミン、ワシトン二領地の如く女子を陪審官と爲すの所に於ては女流またよくろの法學上の才力を實用し得ることあり現に其地の判事、官員、及び數多の良民は皆な此等の女陪審官がよく其務を行て特に成功せることを證すると云ふ又カリフホーニヤ州の一判事は裁判上に六ケ敷事件ある時ハ必ず其細君に議してのち之を斷ずるに細君はよく法律を暗らんじ又義理の在る所を見ること甚だ鋭敏なる由妾に語られたり而して此判事は該州の判事中錚々たるものなり故に妾は亦た女子がよく判事となり得べきことを信じて疑ハざるもの也(未完)

○男子の注意を望む(下)

湘煙女史　中嶋俊

來客中の婦人にもせよ又ハ家の妻或ハ姉妹にもせよ婦人其席にあれバ成る可く其席にある婦人に相應らしき談柄を與へ務て六ケしき言語を省き譬へバ夫婦連れの客にして主人も夫婦共に面會する時にハ主人其女客をして間の惡き場合なからしむる樣談柄を與へて語らしむる樣に爲し男客の何か問われば其事項に因りてハ妻をして答へしむる樣に仕向く可し種々其時の場合もあれバ一々之れを筆する能ハざるも先づ一樣此の如くにして婦人を談話應答に馴るゝを得せしめハ婦人始て交際の愉快を感じ男子も自然右の如き苦勞を取らざるも婦人自ら應答接對一坐の文章を呈出するに至る豈難しとせんや西洋人に會へは必ず先ず婦人に禮を爲し先ず婦人に倚子を與ふ等の如きを以て之れを考ふれバ曩昔に於てハ西洋の婦人も今日の如く活潑なる婦人に非る可し必ず男子の扶け以て今日に至りしものならん蓋し其初西洋人の男子が先ず婦人に禮を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

為し先ず婦人に倚子を與ふ等の如き必ずしも婦人を尊ぶの意に出るに非ずして便ち婦人の間の悪き場合を補ひ扶けしものが遂には今日男女互の禮となりしものならんと信ずる世の男子是に顧る處ありて將さに開けんとする男女交際の針路を挫折するなく之れを扶助せられんとの注意を望む

●佳傳

○ナイテンゲールの傳（第二）

タイムス新聞に戰地の形況を精しう報じて兵士が困苦のうちみなやむ様を公にしたれバ慈善の人々奮起して金をあつめ數多の品物を買求めて送りたれど看病する人甚だ足らずして病院の患者至極に難澁する趣しきりに聞えたり茲に英國に一女子あり其性質其地位其教育みな看病婦隊の長となるに堪へ其慈善の心此報をきくと共に燃る如く熾んなり此を誰と為すと云ハヾ即ち彼のフロレンスナイテンゲールなりナイテンゲール先づ自ら奮ひて戰地に赴くべき看病婦たらんやう申出たれバ我も吾もと同意せる貴婦人少からずされバ千八百五十四年十月廿四日いよ／＼準備をとゝのへて衆口贊美の響きを見送となし英國を發足したる時はナイテンゲールの外に三十七人の貴女ありたり此の一隊は行く所として好遇をうけざるなし先づ佛蘭西のマルセールに至り此處、より滊船に乘じてスキウタリーと云ふかの病院あまたある土其兒の戰地に達したり此時十一月の五日なり都府の内外見るものとして涙の種ならざるなし病院には患者

充滿して身を容るべきの地もなし只だ上士官の病室とすべき五ヶ所のみあき居たれバ彼の看病婦たちは漸く此內に入りけり然るに着后數時間ならざる間に數多の病人續々として送られ來り暫くする內にインケルマーンの激戰に負傷したる者數千人また踵を接して入院したりされバナイチンゲールはいと甲斐々々しく立働きて即刻より之を介抱したれど數多の必要品の手近に備はらざるより思ふまゝの取扱を爲し得ざりしなり故に看病婦中の一人が其後の物語りにも當夜もし少許の酒と葛とあらんには容易に救ひ得たる程の病人も見す〳〵妾が目前に十一人ほどは死し行けりと云へり然れどナイチンゲールは直ちに萬事を理し拮据して數多の品物を用意したれバ物足らぬうちにも先づ思ふまゝの介抱を爲し得るととなれり着后第二日には六百人の患者來り尙ひきも切らずつゞき來りて暫時の間に三千人の病卒を其手に支配すべき程となりたりされバ着后凡そ一週日の間は一日二十時間立つゞけに奔走してあちこちの男女を指揮したゞ四時に足らぬ程ちその眠を爲すのみなりき斯て又た洗濯所を設けて病室用のリンチルを洗ひ或は臺所を設けて肉湯スープなどの類を造りいづれもよく之を管理して萬事を宜く爲めたり

タイムス新聞通信者の報に云くナイチンゲールが此等の病院に於けるや恰も天の使の如し其影樓下にうつるときは病人の顏色乍ち溶くる如くによろこバし氣あり夜に入りて醫師もすでに退き往來する男女も全く見えざるとき病院のすみ〴〵暗黑にして靜かなるは恐しきほどなり此際尙ほ手にランプを携へてあちこちを見まはる所の人は即ちナイチンゲール也と蓋しその身躰かよはく樣姿なよやかにして溫たると娘孃の如しと云へども其の決斷の速かにして且つ靜かなるや泰然として動かざるの風ありその初めて英國を出發するとき世評甚だ高く皆な之をよんで女勇者なりと云へる此言たゞナイチンゲールの性質の半を現はすと雖も亦たあやまりなきの評なりと云ふべし(未完)

○小野の小町の話

小野小町のことつれ〴〵草其外說まち〳〵なれども定かならず長明が無明抄など考合それは小町が盛バ業平より以前のやうにおもふ所もあり或人の說に古代には一國より一人の采女を內裏へ献ぜしとにて既に仁明帝の前後には小町に召れたるもの六十餘人ありしとなり此采女を后町のうちにおらしめ玉ふ故にみな〳〵小町と召れたるなり其人々の宮仕を止て古鄕

に歸り身まかりたる墓をおほかた小町塚と呼しとなん扨こそ國々に小町塚といふもの多し美濃尾張の間にさへ二三ケ所あり然るをなべての小町を一人と思ふより紛れたる說多し例へば寶方朝臣陸奥へ下向の時髑髏の目穴より薄の生出てゝ秋風のふくにつけてもあなめ〳〵の歌の小町ハ小野正澄が娘の小野小町なり文屋康秀が三河椽と成て下りし時身を浮草の根をたえて誘ふ水あらばとよみしは高雄國分の女の小町なりおもひつゝぬればや人の見えつらむの歌又業平の舞の袖などいひしは出羽の郡司小野良實が娘の小町なり高野大師の逢玉ふ時壯なる時憍慢最も甚し衰る日愁歎猶深しと答しは常陸國玉造義景が娘の小町なりかく一人ならず故に時代其外異るとあり中にも良實が娘の小町は美人にて和歌もすぐれたれバ獨り名高くすべて一人のやうに傳へ來るのみと牛馬問答に見ゆ

○木村とう子の傳　（第二）

鐙子の行狀性質は狹き紙上に鈍れる筆の得つくす所ならず故に吾人は他日一書を著して其細なるをも盡したう思ふ程なりされど茲に先づ其大躰を云ハゞ鐙子は資質甚だ大なり生れて既に忍耐敢爲の氣象を受け玉へるうへに幼き時武邊の敎育に身を委ね玉ひしかバ武夫の娘たり妻たるの覺悟は深く其心中に銘したりと云ふべし其事務をとり玉ふや用意周密事に臨んでは特更に自若とし玉ふ有様なれども平素の取爲を見バ餘りに活潑ならず人の說をきゝては唯々と從ひ玉ふやうなり斯ありて事務の擧り得べきやと恐るゝ程に見ゆるも其跡を反り見れバ事みな其宜を得て悉く成就せり此れ君が事務を幹してことよ優る所の性質なり然れどまた溶くる如き愛情をたもちて女らしき樣姿の掬すべき者あり其子に對し又其夫に對し玉ふて愛と誠とのふかゝりしは吾人が尤も感歎するところなり祐吉が西京の同志社に留學せるうち送り玉へる文を見るに愛と敎との言葉數多ある中にも左の如き句所々にあり

昨夜何々も參られ御父樣御傳道のためよとて祈禱被致候其節御前の勉學の力を添られんとを神に祈り被下候誠に有難存候私事も無人故に誠なさむしく存候へども日夜を天父にまかせ居候へバ何事も心安く濟日致居候事有難存居候此上帝に御前の勸學をいのり且つ丈夫にて來夏の休業の節少々なりとも學門進步いたしあの地に參り候樣にと祈る所也土地替りに候とゆへ別て〳〵御いとひ被成候やうねんじ申候御地ハ松だけの名產にて澤山よ御座候由定めし珍らしくありて澤山に御上り被成候事と存候得共右品はのぼせ候故に御心付被成候やう致度候目にさわり齒いたみにてハ外とかハり書見出來不申よく〳〵御心付被成候俄に迎狀さし立候故に御前ことびつくり致しあわて候てハ不相成心おちつけ昨年御同行致た人々へもよく〳〵御宅へ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の御用等もしんせつに承りまた御校中皆々様へよく〳〵
　心おちつけ御禮申上候て御歸京被成候
また君が夫に對し玉ふや何事につけ悉くその言葉を信じ一と
して守り玉ハざるなし永眠し玉ふ前にハ始終用ひ玉へる指環
をはづして熊二君にわたし良人もし第二の妻をめとり玉ハゞ
之を御わたしありたしと述べ置き熊二君の手を固く握り乍ら
逝去し玉へる一事によりて能く其平生を知るべし熊二君が十
三年の洋行中送り玉へる文どもを見れば君が眞心と愛情とに
打たれて涙潸々たり吾人玆にはたゞ其中の歌少々をかゝげて
文中の意を示めし申すべし

　夜中ばの比波音いと高く何となう物すごくねむけさめたれ
ばかくつゞりぬ

異國のなぎさによする波なれバ君にあひ見てたちかへり來ん
ながき夜も明るそつらき我君に夢の逢ふせをたのしみにせば
異國もこの日の本もおなしなるつきの影さへいとゞゆかしき
（右は君が沼津に居玉ふ廿一二の比の咏なるべし）
わかれては獨りわびなん手枕のゆめにも見まくほしき君かな
わか宿の花とも思ふ君もなくになどうくひすは春をつくらん
春の夜のかすみをこむる月かけは夢にあひぬる君とこそ見ゆ
（此外あまたあれども畧す）

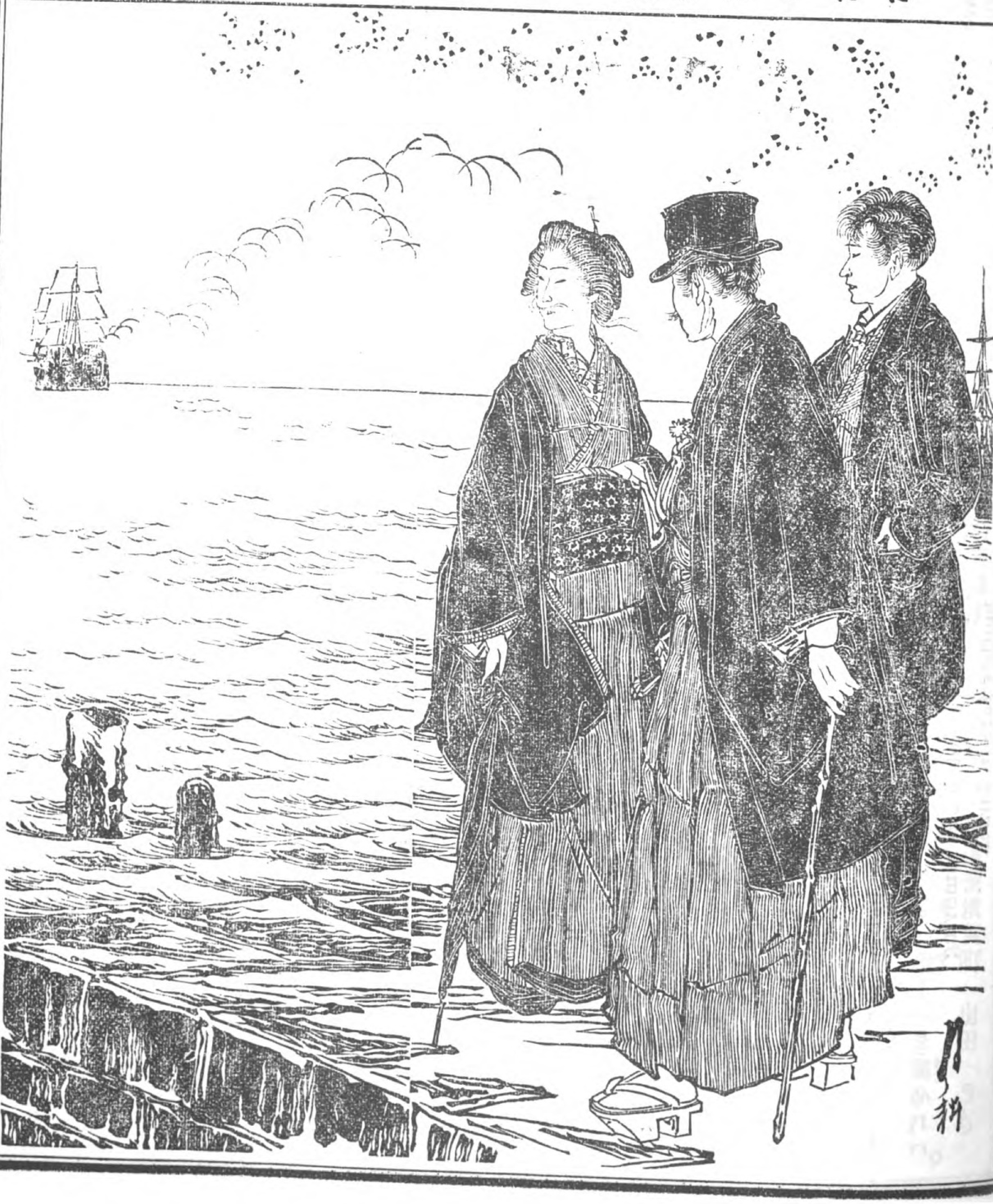
君はまた何人に對しても同情の心ことに深く人の不幸にあへ
る談などきゝ玉へば乍ち涙にうるみて種々と心をなやまし玉
ふの風あり熊二君の塾中にありし書生など都合によりて塾を
出でゝ他に行くとあれバ懇々として其後の事を戒しめ玉ふて
之につゞくは涙なりこれ多くの書生の經驗する所なるべし斯
るゆへに一たん君に接したる人は皆な再び忘る可らず況んや
朝夕君に接し君の愛をうけて數多の教を蒙れるものをや温乎
たる其風、自若たる其躰、親切なる言葉、沈着せる取なし、熱心
神に仕へ玉ふの風、一事をも忽せにし玉ハざる様、なんどは吾
人が今に至るも倚ほ明白に眼前に認め得る所なり

嚮に万國婦人禁酒會の書記レビット夫人府下に來り所々にて
演説し玉へる日吾人は一日之を待ちて厚生館に女學演説會を
開きたり此日君初て夫人に接し其熱心を歎じて深く其志を
我國に行ハんと決し鬼頭マス子等と圖つて府下に同禁酒會の
支會を開かん爲め數度相會して計畫ありき然れども其事未だ
成らずして永逝し玉へり明治女學校は既に數多の艱難を經て
今漸く安心の地に達りたれども之より爲すべきの事甚多し束
髮會は今年再び勢力を得て今大に其目的を達したれども其行
るゝや倚廣しと云ふ可らず熊二君卯吉君これより尤も内助を
要するの日あり祐吉倚ほ半途よして教導尤も忽せにす可らず
特に女學やうやく起らんとして有爲の婦人を要するといよい
よ切ならんとす此時よあたりて忽焉君永逝す吾人もし上帝を
信じ未來の實在を信せずんば殆んど現世に望なきなり天王寺
中の樹高し墓標其下にうづこまりて能く吾人の前途を教ゆ

○梅香女史の傳

第十七回(洋行)

彼の男は其夕直ちに横濱に至らんとするに母ある人にはかに病起りて共に行べうもあけれバ之を根岸の家に送りて其夜は温かに介抱し翌朝はやう横濱に行きて聞ゝをきたる宿屋に着せる時ハ既に乗込たるあとゝきゝ又々取いそぎて車を走らせ波止場に至れバ黒煙天にいらばひ滊船三角ありに黒く見えて早や遙かに出航したる後なりけり此より非常の變遷あれども此傳あまりに長うなれバ一先づ茲に一段落を畫し此後は余白あるとき折々に物すべし



● 寄書

○雨後途上　湘煙女史　中島　俊

雲衣收跡現孱顔、好去東都始對山、一霎雨餘塵不起、蟬吟挾路樹陰寒

客窓夜雨

斷腸何唱客中情、燈影伴君眠不寧、夜雨縱然來繞夢、瀟々無聽異鄉聲

○木村とう子を弔ふ英詩　横濱　若松　しづ

左は横濱の某女學校に居玉ふ方より送られたるもの也

IN MEMORIAM.

After reading Mrs. Kimura's life as it appeared in "Jogaku Zasshi."

(1.) Leave me here the papers, friends, nor
chide thy comrade thus withdrawn;
Leave me with the dead awhile—the
frail, frail tree of life to mourn.

(2.) Now, at least, sin free to cherish
sweet converse denied in life;
For the noble soul has passed, and
vain regret must not be rife.

(3.) Grief, they say, is kin to weakness
'gainst which all must sure be proof;
Tears, I'm told, are effeminate
fit alone for sound reproof.

(4.) Should one then be chid for sighing
for the song-bird that has soared
Up beyond the bright horizon
from the cottage that it cheered?

(5.) Is it strange that feelings ever
rise against the cruel gust
Which scatt'ring fragrant summer blossoms
lays their glary in the dust?

(6.) Sister, thou who fill'dst the purpose
to woman-hood on earth consigned,
Be the fount of inspiration
welling through this soul resigned.

(7.) Whom as mother friend and sister,
selfish motive ne'er did thrall,
Teach me now the secret of that love
which glowed for each and all.

(8.) May thy courage giving to the
Slumb'ring virtues spring and life,
Strike the death blow to this clinging,
Ever fett'ring chain of self.

(9.) Loved ones miss thee, wife and mother
in thy home congenial;
Thy pew's vacant death removing
mother rare in Israel.

(10.) Children cry for their mild matron
and their grief is not appeased,
while the mem'ry of thy voice wakes
langings in the hearts bereaved.

(11.) Art thou no more, noble woman
shall thy influ'ence hence be void
No more here to render succour
give affection unallayed.

(12.) Heaven forbid! thy life so lonely
lives and shall live evermore,
Not an act or word ere uttere'd
shall be ever things of yore.

(13.) Thou to me a comrade be, known but
unknown, list yet gained;
Far though near, yet pining never
for the hand touch not retained.

(14.) Spirit with spirit, soul with soul
in true communion e'er should be;
May thy spirit augeled, holy
work with mine in harmony.

(15.) When I weary of life's bivouac
and the race at last is won,
Then thy wings shall waft me
younder up to meet the Blessed One.

〇裁縫すへめの歌　　南遠横須賀町　山田　うら

抑も裁ち縫ひに。女子たるもの第一に。覺へ置くへき業あれ〻。讀書習字に算術と。劣らぬやうに學ふへし。併し其内裁縫は。最も要用あるものぞ。廣き世間のあかにこそ。琴よ三味線雙六や。手踊小歌を覺ゆとも。裁ち縫ひ事の得ならぬものも少あからす。斯の如きの女子をは。擧けて賞むるに足らぬなり。假令其家富貴にて。裁ち縫ひ女を傭ひ置き。自身から手をは下けすして。よろしき身分にわらふとも。慰みにだも縫て見よ。むかしく〳〵周國に。文王といへる聖人ありき。其后にさへも手づからに。織り裁ち縫ひをなされしと。古き書にもみへたるぞ。これを鑑に各自も。夫〻余れの身をさとり。裁ち縫ひ事に精出せ。又手世に傳ふ諺に。裁ち縫ひする日を能くえらみ。若しも其日か凶しければ。織姫の。教へ初めしから衣。たつたひことによろこひをます。又ひとへには津の國の。あられゑひすの衣あれは。入日も時もきらはさりけりと。いふ歌あとをとあへよと。言ひ傳へにはかゝわらす。裁ち縫ひ仕方に念を入れ。必す疎略にせさる樣。平常に。心懸くへきことそかし

●前號發兌以來前載の外。中島俊子の（女子教育策）操竹女史の（婦女子への忠告）荒井東雲氏の（子育の教）玉名清子の（我國婦人に望む）蘆野潤三郎氏の（答及報告）大石榮子の（女學雜誌批評）島浪江子の（蝙蝠の說）等正に落手致候

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

●新報

○女子の大學入校　府下芝區本芝材木町十三番地の醫師木村井光氏の二女秀子及び三女久重子は夙とに大學入校に熱心し明治十八年の一月廿六日時の大學總理加藤弘之君に對して豫備門入學の試驗を願出られたるに（本學に於て目下女生徒入學之儀は詮議に難及候條別紙及返却候）と指令あり然れど再應押して願はれたるに又（女子を大學校へ入るゝの規則未た無之に付却下相成候條此段申入候也）との指令あり依て七月八日疑を記して同總理へ其理由を質されたれども其書は尚ほ留置ありて下答なし同十月は文部卿へ直訴し十九年一月は文部大臣へ直訴し同月廿七日又々總理心得外山正一君へ願出られたるに（都合有之當分の內難差許候事）との指令あり依て去五月六日には第一高等中學校々長に對して同樣願出られたるに是亦（當校に於ては現今女子教場の設無之に付願の趣難聽屆候事）との答ありほと〳〵望盡きて居玉ふ間にかの久重子は八月廿日十五年八ケ月を一期として肺病の症にかゝり死去ありたり痛歎の至と云ふべし秀子は當年十九才なれども獨逸學を修めて醫學研究の念一日も止みがたしとの趣なれば其の志の如く入學の速に許可さるゝに至らんと切望する所あり凡そ女子を大學に入るゝとは歐米にも種々の議論あり米國の如く自由を尊ぶ土地に於ても尚ほ之を許さゞる所ある程なれども之を許さゞるの理由は要する所ろ過慮因循の二に出でざる如し外山君の指令よ當分の內難差許とあり然らば遠からずして之を許可さるゝの日を見るべきか同君は演劇場に女役者を混入するの心配を笑ひ玉へり況んや女子を大學に入るゝに故障言ふものをや吾人は其許可の日の一日も速かならんとを熱望するもの也

○米國の女學者　此頃米國紐育の批評雜誌記者が當今現存せる學者一百名を米合衆國中より撰り出して一表をつくりたるが其うちに左の如き女學者も加はりたり（七月分同雜誌）

バーネツト夫人(Mrs. Burnett.)　ドツヂ夫人(Mrs. Dodge.)

フート夫人　(Mrs. Hoote.)　マルフリー孃(Miss Murfree.)

プレストン孃(Miss. Presten.)　ホーエ夫人(Mrs. Howe.)

ジヤクソン夫人(Mrs. Jackson.)　ストウエ夫人(Mrs. Stowe.)

トーマス孃 Miss Thomas.)　ウールソン孃(Miss Woolson.)

○何故婚姻せし乎　此頃米國ニウヨーク州の一都府にてある人が表題の如き問を發して諸人より答を集めたるに種々の面白き理由もありしうちに左に示す如きもありと云へり婚姻を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

重んずる彼國にてすら尙ほ如此きなれバ我國の如きに於てもしかゝる問の答を集めバ何如ならんか蓋し戰慄するの外なかるべし(七月廿四日のイブニング、スターに據る)

此の問は即ち余が十一年間自ら答を得んと欲する所也

小生怠慢の質なりしゆへ婚姻いたし候

小生甚だ悲しがる性質ゆへ慰め手を要し候故也

アイスクリーム、棒砂糖、を多く求め又演劇を好み休息を欲するなどの癖ありしゆへに候婚後は貯金仕候

初め吾が妻を千人中の一人と思ひしゆへに候然し只今にては一人中の千人かとも思ハれ候

小生只今有する如き經驗をその初めに有せざりし故に候

知事その足を小生に與へんとせしゆへ小生は其娘の手をうくるとに決心いたし候ひし也

此問ひは吾友人及び隣人の屢バ問ふ所にて同樣思らしきとに候

當初使ひ道を知らぬ程の金を持ちし故に候然し只今は使ひ道を知りても金が無御座候

○女子職業集報　此頃受取りたる報告は左の如し

盤城國棚倉地方にてハ近年大に養蠶製糸の業盛んになりて東村西落到る處桑田を見ざるなく養蠶家製糸家年一年より增加し婦女子にして此道に熱心なるもの隨て多く蚕月桑を條とるより十月生糸を製し終る迄て大概女子の職業となれり又其外織物を善くする婦女ありて精好なる絹布を製造せりされど皆な自家製造にて別に紡織所の設あるにあらず舊士族及び町家の婦女ハ裁縫の外別に職業と稱すべきなし村落に入れバ婦女子と雖も男子と同く力を農林に盡すの外今日迄ハ他の職業を見ず唯だ自家用の綿布を織るとは到る所皆然り(同所の蘆野潤三郎氏より報知)

常陸國信太郡江戶崎にては十二三才の娘ハ皆な學校より退かしめ子守草刈馬引等となす間ま吳服屋に通ひ裁縫を習ふもあり本年夏中郡役所の世話にて糸操工女二名を雇ひ工女を募れり器械は座操にて養蠶の高も少けれバ僅か二ケ月にて秋蚕までくり終れり(同所の花町よふ子より報知)

府下西紺屋町の秀英舍にてハ去る頃より十二三才以下の娘を雇ひ活版の組くづしに使ふ者當今十七名あり一日大抵七八錢を給すときく(社友某より報知)

尙ほ諸方より續々惠報あらんとを乞ふ

○女學校　麻布の東洋英和女學校にてハ特別の一科を設けて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

專ら西洋の風俗を敎へらるゝよし尤も此は生徒の望によりて敎授さるゝ趣あり此科の生徒は常に洋服を着し一日一回づゝ西洋教師と共に洋食し寄宿舎内には寐臺を用ひ万事西洋婦人同樣に取扱はるゝ由にて現今此科の生徒四名あり入費は一ヶ月十三圓五十錢なりと當節かゝる敎育亦た必要にして而も斯かる科を設けたる所なければ該科の生徒は追々增加することあるへし。錦町の女子職業學校には生徒既に一百五十名ある由。高等師範學校女子部の女敎師諸氏は其筋の訓示もありたるやにて平常尤も簡易なる洋服をつけらるゝ趣あり。

○中島俊子　當今麹町區富士見町四丁目五番地に住居さるゝ湘煙女史中島俊子は本日より有志の女子を集め土曜日曜を除くの外午前八時より十二時迄漢籍習字二科を敎授さるゝ由尤も遠からざる内に英學の一科をも加へ且つ開塾の許可ありし上は廣く公告さるゝ趣あり定めて就學の貴嬢多きことならんと信ず

○レース製造所　東京レース製造所にては過般試驗を執行し現員四十九名の生徒にて一時は募集を見合する筈なりしが今度更に三十一名を募りて八十名の定員に復することとなり當十月中に募集さるゝ見込のよし

○京都府女學校　の生徒は目下普通科百二十八名あるが此回手袋靴下襟卷其他の婦人装飾品に係る絲細工を授業することに定められたり又同校は生徒追々增加して今學期は前學期に比して四十餘名の增員なりと云へり(九月廿六日中外電報)

○女子敎育　森文部大臣は今日女子の敎育は最も急務なりとて其敎育に關する經濟法家政訓育等を高等女學校より漸次各小學校へ布及せらるゝ見込にて已に內閣へ具伸せられ高等女學校に於ては不日改革を施行せらるゝと云ふと去月十七日の朝野新聞に見へたり

○レビット夫人　は神戸にて演說を終り玉ひし後廿四日より廿九日迄六日の間大坂にて毎日禁酒の演說ありし由其通辨の方々の中に浮田ふく、江頭ひで、櫻井ちか、の三女ありたり

○神戸婦人禁酒會　を設立し會員に加入したる婦人凡そ六十餘名あり會頭は川本操氏副會頭は各敎會より一名づゝ書記には渡邊ツチ子ありとぞ府下には木村鐙子永眠の後東京婦人禁酒會設立の計畫中絶したれども遠からず之を見るの日あるべきを希望す

○婦人あみもの會　去廿五日午后二時より日本橋兩替町敎會堂にて發會式及び會員手製品の陳列會を執行したり同會は創

立以來生徒の數六十餘名ありしと

○產婆の洋行　淺草區福富町三番地の產婆學校の幹事群馬縣下南勢田郡田津村彌一郎の次女尾池よね(二十五年五ヶ月)は產婆學研究の爲め米國オークランドへ留學する都合にて一昨々日出發したり產婆の洋行は此婦人が嚆矢なるへし

○增田サハ女の履歷　駒込避病院の看病婦總取締增田サハ女が東京府廳より賞與を賜りたる事は近頃の新聞に見えしが今同女の履歷を聞に其忠實にして膽力ある尋常婦女子の比に非れば爰に之を記しぬ抑サハ女は鹿兒島の士籍にして家素より富豪の聞へありしが不幸にも幼き頃父を失ひ一人の姉ありしも既に他家へ嫁きたれば母の計らひにて同鄕某の二男を聟養子となし妹サハ女を之に妻はすることゝなしたり時にサハ女年十五歲なりし然るに夫某は放蕩無賴にして僅か二ヶ年間に巨額の財產を失ひ到底改心の見込なければとて母は之を實家へ歸らしめサハ女と離緣せしは同女が十七歲の時なりき夫よりサハ女は後夫を迎へず藩侯の夫人に近侍すること八年二十五歲にして母を失ひ全く獨身とはなりたり是より先に離緣されたる夫より屢々わび入りて再緣を申入しもサハ女は母の意に副はずして離別されたる者に再び見ゆるの理なしと之を謝絕せしが外に家を繼べきものなければとて或人の勸めにより遂に前夫をして增田の家を相續せしめ更に他の媒介に仍りて同藩士有馬太郎兵衞氏に再嫁する事とはなりたり然るに去る十年の役に夫太郎兵衞は西鄕隆盛に隨ひ出陣して各所に戰ひ遂に熊本近傍よて戰死を遂たりしもサハ女は之れを知るに由なく夫が芽出度歸陣するを待居しが生計に困しみ且つ少しく感悟する所ありて鹿兒嶋に假設したる警視病院の看病婦となり他に勝れて甲斐〴〵しく創痍者を勞はる內時しも九月一日日向路より一條の血路を開きて賊軍の大將西鄕桐野を始め別府邊見の人々が餓虎の吼るが如く鹿兒島に突て出で城下は忽ち修羅の街となり砲煙彈雨の慘況を極めしかば他の看病婦は何れも右往左往に散亂して影をだも止めず醫員も此騷ぎに逸早く亂を避たる其中にサハ女は己れが擔當の患者齋藤何某を脊中に負ひ松井某の手を引つゝ病院を出たり夫より松井は米倉の官兵陣營に投じ齋藤一人となりしかば今は心安しと豫て知る所なる新屋敷の或る家に齋藤を托し置き四方を奔走して醫員の所在を搜し求れども更に見當らず再び病院よ取て返せば患者其他の居殘りたる者は無慘にも賊刃に罹りて死屍狼藉たりしサハ女は之にも臆せず患者に必用なる毛布及び醫員

に要用ある處方録とを纒めて新屋敷に歸りしがいまは同所さへおやうく見へしかバ武橋にいたりて一と先ヅ難を市來に避けんとおもひしも齊藤の病おもくして人夫一人の應ずるものさえなけれバ止むことを得ずして水上坂の明き家にとゞまり看護すること五六日其あいだにも隙を伺ひてしば〳〵病院におもむき蚊帳蒲團等を携へ來り又牛乳鷄卵抔をも求めて患者の介抱怠りなかりし斯くて一夜病院に往て院長が必要の物品を納れ置たる革袋を見出せしかば賊に奪はれじと持歸るを賊兵に怪まれ逃行く後ろより一刀兩斷と振り下したる太刀尖は幸に達せざりしも遂に免るべからずと覺悟を極め革袋を地上に棄しかば賊が之を拾ひ取る間に前なる小川に投ぢて橋下に潜伏し辛ふじて難を免れたり又一日忽ち數名の賊兵がサハ女の隱れ家に闖入して患者は官軍の巡査ならんと詰問に及びしもサハ女は決して然る者に非るよしを述べ且つ豫め齋藤に教えて唖者なりと手眞似を爲さしめたりしが賊は兩人を縛して本營に至らしめ百方窨問せしも實を明さゞりければ血氣の賊兵堪へかねて太刀を拔持ちアハヤ斬んと爲したる時待て暫しと後へより止めたりし一人の賊兵はサハ女を知れる者にして這は是熊本に於て戰死したる有馬太郎兵衞が妻なりとの一言に偖は味方の妻女なりしか粗忽の段は免されよと縛めを解て送り歸したりサハ女は此時始めて夫の討死を聞得て愁傷遣る方なかりしが斯て已むべき事に非れば災を免れたるを喜びつゝ齊藤を伴なひて西田町に寄留せんと同所に到りしが一人も之を容る者のなきに殆ど困り居る内官軍より大門口邊へ砲臺を築くを見掛しかば天の與へと喜び齋藤を暫し片邊に憩しめ置右の砲臺に至りて情を告げ且携へ居たる處方録と齋藤の手帳とを出して證となせしかば始めて官軍の哨兵内に入ることを許されて齊藤を谷山郷の警視病院に送り屆けしかば同病院の諸員は皆サハ女が困苦流離の中にも心切に看護せし爲め齋藤が萬死を免かれたるを稱賛したりと夫よりサハ女は患者を護送して長崎に赴き賊徒滅亡の後鹿兒嶋に歸りて谷山の警視病院に勤續せしが同院を廢されし後出京したるに警視廳より其功勞を賞して金四十圓を賜り續て警視病院の看病婦を勤め廢院後は愛宕下なる三渓病院の看病婦となり十五年四月より東京有志共立病院看病婦の取締を命ぜられ十八年十一月職を辭し尋で東京府臨時病院の看病婦となり坂本町の分院に轉勤し更に特選を以て駒込避病院の看病婦總取締とはなれりサハ女本年三十八歳身躰最と肥滿して容貌温和に其行爲廉直忠愛にして多く得難き婦人なりといふ(九月卅日時事新報)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

●●●第一高等中學校長　野村彦四郎君題字●
●●●大日本教育會理事　日下部三之介君閲●
●●●岩手縣訓導兼督業　齊藤貞藏君編輯●

●女子脩身範

全四冊 首巻六錢●一巻六錢五厘●貳巻七錢五厘●三巻八錢

此書ハ先般御發布ありし小學校の學科程度に從ひ女子修身科用に適する爲に編纂せしものにして先書中の概畧ハ和漢古今の嘉言を摘採し其組立方法ハ授業の順序に據り生徒の心力に適せしめ文章の難易と義理の淺深とを酌量し以て簡より繁に入り短より長に進むを旨とし孝悌。忠信。慈愛。貞淑等其他禮節。交際に至るまで皆女子の心得となるべき事を撰出し專ら女子の美德を涵養し修身齊家の道を講習せしむる樣編者年來教育の職に從事せし實驗によりて編述せし女子修身教科用に適切の書なり

●茶の湯獨稽古

幷に圖解●和綴全一冊第三版
正價金十六錢郵便税金四錢

此書ハ數寄屋構造●底造り方●數寄屋木材●壁建具●疊●活花●會席料理●亭主心得●客心得●薄茶立樣●炭仕樣●濃茶立樣●其他茶の湯に關する一切の事を漏れなく記載せし珍書なり

●出版書肆 日本橋區元大坂町 論語講義發兌元　法木德兵衛

●速記叢書 講談演說集

定價郵税共特別割引金拾四錢（郵便切手代用にても宜し）

第二冊 ●かな世界の準備（元海軍一等教官近藤眞琴君）●半開化ハ衛生の害（陸軍一等軍醫渡邊鼎君）●孛國の司法制度及び日本現時の司法官等の事（司法次官三好退藏君）●法律と經濟との關係（元老院議官細川潤次郎君）●基督教ハ人間社會進步の爲に必要なり（米國博士フルベッキ君）●〔發兌〕東京日本橋通三丁目丸善書店。同本町三丁目瑞穗屋。同馬喰町二丁目石川治兵衛●〔取次〕東京本郷弓町女學雜誌社

現今中外報告記要

洋裝全一冊凡百頁
正價二十錢郵税四錢

目次●北海道農產ノ景況●石腦油ヲ瀛船ノ焚料ニ供スル便益●英國政治家履歷●佛清通商條約●世界ノ鉄道●商法大會議議事始末●外沿革數件

發兌所　芝區櫻川町八番地　萬春堂

女學叢誌

毎月三回五の日發兌定價金四錢十冊前金三十八錢二十冊同七十五錢十月五日第三十八號發兌毎號美畫二枚挿入す

本誌ハ主として本邦婦人の有樣を改良し社會文化の上進を計るの目的を以て編輯するものにして（論說）欄に於てハ專ら此主義に基て立論し（中外新報）欄内にハ苟も婦人に關する内外の奇事珍說ハ漏さず揭載し（學藝一班）の欄内に於てハ時々圖畫を挿入して文藝學術上諸科の原理を詳解し（對譯）欄内よりハ西洋の俚諺或ハ會話一笑話等の對譯を揭げ（史傳）の欄内にハ内外古今賢婦烈女の傳を揭げ殊に府下に有名なる文章家前田夏繁主の手稿を載せ婦人文章の軌範とせん事を勉めたり（雜記）欄内よりハ他の諸欄に入らざる記事、批評、論說、美術、手藝、家事、衛生等の事を記載し（新作物語）欄内ハ主として文學士春のや主人の妙案もて綴られたる婦人に關する續き物語を揭げ時々西洋の小說を譯載して彼國の人情風俗をも知らしめ（家政要報）欄内にハ家事經濟の事々日用品諸相場の事等に至るまで揭載し（御伽草）の欄内にハ投寄の名文詩歌等を揭げるものなり總て理學上の滋味と文學上の甘味とを以て紙上の趣味を程よく調合したる雜誌なれバ請ふ江湖の貴婦令孃及び教育の任に當らるゝ諸君ハ一讀ありて其誣言ならざるを知り給へ

東京京橋區南鍋町貳丁目十一番地　續文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○蒼生膏けのはへる藥

一貝定價金拾貳錢

効能第一頭のけのぬけたるもの或ハ火傷○はつぱあつほし等にてはけたるもの又まゆけ其他下のけのはへぬに朝夕摺付てよし總て毛のぬけるをとめる良劑也

東京々橋區出雲町十六番地

資生堂福原德製

大取次東京銀座岸田○同佐々木○池ノ端守田○中橋喜谷○横濱石川町鈴本○大坂淡路町二丁目野九○西京柳の馬場川杉○名古屋本町士屋其他東京幷諸縣共藥店にあり取次無御座場所ハ一貝以上郵便切手にて御注文不苦候

●教學論集 第參拾四編

十月五日發兌 價郵稅共十錢

目次●書ハ讀ム可シ、小乘ノ事、福田行誡○六和敬辨、釋雲照○哲學要領(第十近世哲學第二)井上圓了○楮裡燕語小林日昇○大乘非佛說論者ニ告ク、吉谷覺壽○大日本大聖傳(亦聖德太子索隱)佐田介石○殿と樣、石村貞一○懲役囚徒の心得(第二社會成立の由來)○耶蘇教一夕話、島地默雷●(雜錄)●眞宗私立教育會趣意書○夢癖集序、原坦山○法華經大意鈔序、ゼームス○佛教講談筵錄序、小栗栖香頂●詩歌、謗、哲言●六冊前金價郵稅共五十五錢

發行所東京芝公園地第二十六號 無外書房

本校去月二十日開校當日六拾有余名生徒入學アリ倘當分寄宿生ノ入校ヲ許ス

附テ云今回英領亞米利加カナダ人エス、ウヰンターミウト女教師ヲ增聘セリ同氏ハカナダ、オンタリオ州ニ於テ幼ヨリ普通學科及唱歌音樂ヲ修業シ後チ女子模範學校及女子師範學校ヲ卒業シ猶其後女子大學校ニ於テ佛學幷羅甸學ヲ修メ業學ノ証書ヲ受ケ又オタリオ齒學校ニ於テ齒學ヲ修業セリ

東京麻布東鳥居坂

東洋英和女學校

●詩文添削廣告

詩 絶句一首三錢 律一首七錢 古詩一首十錢

文 題跋一首五錢 記事一篇七錢 論說一篇十錢

返稿は往復日數を除き五日以內添削料は郵劵代用不苦尤も前納たるべし

麴町區下六番町卅番地

行雲社

英語發音秘決

米國フルベッキ校閲 日本清水彥五郎訂正 菊池武信著述

正價二十五錢 郵送費八錢 郵劵代用送費共三十四錢

此書ハ世間流布ノ獨學自脩等ノ書ノ如ク原文ニ不充分ナル假名ヲ附シタル杜撰ノ者トハ異ニシテ菊池先生多年教授ノ經驗上其實効ヲ得ラレシ者ト歐米諸博士ノ發音法トヲ併セ記シ殊ニ「フルベッキ」清水兩先生ノ叮嚀ナル校訂ヲ加ヘラレタル者ニシテ英字廿六ノ名稱ヨリ名字及ヒ綴字ノ發音法音符默字ノ概則文章讀方法數字重字畧語等ニ至ル迄凡ソ正則ヲ以テ英語ヲ學ブノ材料ハ一モ漏ス所ナク殊ニ中間圖畫ヲ插テ發音機ノ作用ヲ示シタレバ此書ニ據テ習學セバ教師ニ就クヲ要セズシテ其發音ノ正シキヲ得ルヤ毫モ英米人ト異ルヿ無キニ至ル可シ

新撰小學體操書 全三冊

千葉師範學校教員 體操傳習所卒業 馬場壽編

上卷 遊戲ノ部 美容術隊列運動 拾五錢 郵送費四錢

中卷 徒手運動 亞鈴運動 貳拾錢 同 六錢

下卷 球竿運動 拾五錢 同 四錢

右書ハ馬場壽君卓越ノ學識ト多年軀躰教育ニ從事シテ得ラレタル經驗トヲ以テ教育ノ理法ニ從ヒ小學校ニ適合スベキ樣編纂セラレタルモノニシテ完全無欠比類ナキノ小學體操書ト云フベシ上卷ニハ極メテ愉快ニシテ直チニ行フヲ得ベキ遊戲二十餘種ヲ記シ中卷ニハ隊列運動美容術徒手運動ヲ載セ下卷ニハ啞鈴運動並ヒニ球竿運動ヲ記シ當時教科書中各縣ニ於テ需求最モ多キノ書ナリ

日本橋區馬喰町二丁目一番地

石川治兵衞

社告

第三回點取文

日本婦人授産業
女學雜誌社

右文題に對し寄答の方は來る十月卅一日迄に必ず其答文を寄送あらんことを乞ふ右日限后到着の分は遺憾ながら社評の中に入らざるべし
右寄送の答文は社評の上優劣を定め甲乙丙三等の點を得る者には各左の賞酬を呈す

甲點者	女學雜誌	三十冊	無代呈上
乙點者	同	二十冊	同
丙點者	同	十冊	同

材料新誌

演説著作

弊社發行の材料新誌は古今の著書中より演説著作の材料となるべき金言、名句、卓論、奇事、偉行、佳話、の類を集めたるものなり素と社員が文壇の時弊を見て余業に編輯し發兌するものなれども世上の好評甚高く發賣部數も漸々に增加せり女學雜誌愛讀の諸氏は又同樣に御注文ありて編者の微志と苦辛とを御承知あらんことを希ふ
右毎月一回宛發行。紙數三十頁附錄四頁。一冊十錢全國無遞送料。見本を要せらるゝ方は郵劵代用にてよろし

書籍取次

弊社は看客の便利を圖り凡そ女學に關係ある書籍にして東京府下の書肆中にて出版したるものは一切無料にて取次郵送可仕候依て右注文の方は書名と出版者の宿所姓名とに合せて定價の金員を送附あるべし大抵は其內にて郵送賃を辨じ申すと雖も大部の書は別に郵賃を請求可致候

賣捌所取次の看客に告ぐ

女學雜誌大賣捌の書店中不都合の廉御座候節は直に御賣を中止仕候社則に付右樣の書店より本誌購讀の看客はそれが爲め御不便不掛と存じ候よつて向後右樣の次第にて書店より御配達不仕節は直に本社へ御一報有之度(從來何書店より購讀せしとの旨御記入ありて)候早速郵送致し厚意を損ぜざる樣致度希候也

女學雜誌社

廣告

六合雜誌

第六十九號九月卅日發行

○目次○亞細亞之光と世界の光(井深梶之助)信仰(高田早苗)米國政黨の波瀾(狂農居士)文明の前途を論ず(浮田和民)矢野文雄氏週遊雜記の經濟論を讀む(德富猪一郎)スペンセル氏の哲學を論ず(ジェームスマッコシ)○寄書(スピンヂル)
一冊十錢半ヶ年(六冊)前金五十五錢○一ヶ年(十二冊)前金一圓但し郵税を要せず

基督教新聞

第百六十六號九月廿九日發行

○基督教徒の祈禱、嚴密ある室に入り戶を閉て自ら反りみよ、○教報○雜錄。懼るゝ勿れ默せずして語るべし、万事皆可、天地は煙環の如し○雜報○英文教報○社告○廣告
右一冊三錢毎月各土曜日發行

東京々橋區瀧山町六番地 警醒社

農業雜誌

毎月三回 毎五ノ日發行

農業雜誌は本年七月大改良を行ひしより非常に世間の好評判を得て全國へ配附する高も頓に增加し弊社の幸榮之に過ぎず尙ほ愈々改良に進み日本農業の先導者たるに負かざらんとす殊に近刊の本誌には●北海道の說●沖繩縣八重山島事情●を連載し我帝國南北の關門たる兩樞要說の事情を悉し將來開拓の順序方法等を述ると是より深切詳明なるはなかるべし其他毎號農業上百般の有益なる論說、寄書、問答、雜報、及び書探、考へもの等夥多記載したれば經世家、有志家殊に農業殖產に從事せらるゝ人の良友なれば請ふ御購讀あらんことを
●農業雜誌定價●一冊五錢郵稅一錢●半ヶ年分十八冊郵稅共前金一圓●一ヶ年分三十六冊郵稅共前金壹圓八十錢●御注文前金を要す●見本御要望は郵劵六錢御送附あれ●第二百四十三號十月五日發兌●獸類傳染病豫防規則の發布、北海道の說、八重山群嶋取調履歷●雜報●寄書。農家雜感。桑虱の發生を豫防する法●問答。船艦用材の樹種。馬病治驗法、稻病豫防法、イナゴ料理法。質問●北海道錄事數件●考へもの●廣告

東京麻布本村町二百十七番地 學農雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

○通學寄宿 女子學藝教授（十九年九月教則改正）

教科 ○裁縫○讀書○習字○作文○算術○英學○和歌○琴箏○點茶○修身行儀

右一科を專學するも數科を兼修するも隨意とす專ら其適する所に從ひ實用の業を速成せしむへし

東京神田區中猿樂町十七番地と二十四號 松香館水原

今般左の處へ裁縫教授所を假設し從來の弊習を一洗するを目的とし敬愛を主とし專ら和洋の裁縫編物押繪英語の初歩を教授す其課業ハ依り外國婦人をも聘し及び學士に依賴して家政要領を講義す有志貴婦人令孃陸續來習あらんことを企望す但し便宜を計り仕立物洗張編物等廉價を以て御依賴に應ず尚二錢の郵券御送附あらバ速に細則を呈すべし

明治十九年九月

東京麻布仲の町二十番地長田方

東京府免許高等裁縫教師 水野八重子

元岡山縣師範學校裁縫教師 芹川咲子

岡山縣知事千阪高雅君撰序 同書記官高津暉君序書

山陽新報主筆

日本婚姻法論略 完

（正價郵稅共代金六十錢）洋裝美本番數百九十八ぺージ

附 佛國婚姻法綱領釋義及批評

右ハ歐米各國ノ婚姻法主義ヲ參酌シテ我帝國ニ通用スベキ婚姻ノ資格方法順序離婚別居ノ習慣法律財產所有ノ權利義務等ヲ詳論シタル者ニシテ傍ラ佛國民法中婚姻ニ關スル部ヲ委ク譯述シ附錄ヲ以テ其綱領釋義及ビ批評ヲ爲シタル近代ノ傑著ナリ書中日本婚姻制度ノ沿革ノ如キ錦上數點ノ添花トシテ見ルベシ今ヤ男女同權ノ說世ニ行ハレ政府事遠カラズ婚姻法ヲ制定センコトス此書蓋シ異日成典ノ東道ニシテ制法以前人民ノ熟知セザル可カラザル者歟且此書ハ政府ノ貴顯民間ノ學士等ヨリ非常ナル稱贊ノ聲ヲ以テ出版ヲ促ガサレタルモノナリ

大坂東區淡路町二丁目十三番地（日野商店內）

出版發賣 帝國印書會社

大賣捌書林大坂備後町梅原龜七●東京通三丁目丸善●備前岡山西尾●藝州廣島早速社

定價

一册。五錢	郵稅。一錢	（但府內無郵稅）
十册。四十八錢	郵稅。十錢	（同前）
廿册。九十錢	郵稅。廿錢	（同前）
卅册。一圓卅錢	郵稅。卅錢	（同前）

一ヶ月分女學雜誌代價	十五錢	府外へ十八錢
二ヶ月分同	三十錢	府外へ三十六錢
三ヶ月分同	四十五錢	府外へ五十四錢
半年分同	八十八錢	府外へ一圓六錢
一年分同	一圓六十錢	府外へ一圓九十六錢

廣告

一行（廿八字詰）	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌） 巖々堂

東京神田區雉子町	團々社支店
同神田區佐柄木町	東海堂
同日本橋區新葭町	巨明堂
同日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同本鄕區元富士町	盛春堂
同本鄕區春木町二丁目	解明堂
同牛込區肴町	活神堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝

東京芝西久保櫻川町（支局） 萬春堂

發行所

本局 東京本鄕弓町壹丁目廿番地 女學雜誌社

持主兼編輯 巖本善治

印刷 森田豐治

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six months, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumichô, Hongô, Tôkyô.

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治十九年九月

驛遞局認可

……○和歌○琴箏○點茶○修身行儀
右一科を專學するも數科を兼修するも隨意とす專ら其適する所に從ひ實用の業を速成せしむへし

東京神田區中猿樂町十七番地と二十四號

松香館水原

今般左の處へ**裁縫教授所**を假設し從來の弊習を一洗するを目的とし敬愛を主とし專ら和洋の裁縫編物押繪英語の初歩を教授す其課業は依り外國婦人をも聘し及び學士に依賴して家政要領を講義す有志貴婦人令孃陸續來習わらんとを企望す但し便宜を計り仕立物洗張編物等廉價を以て御依賴に應す尚二錢の郵劵御送附わらば速に細則を呈すべし

明治十九年九月

東京麻布仲の町二十番地長田方

東京府免許高等裁縫教師　水野八重子

元岡山縣師範學校裁縫教師　芹川咲子

日本婚姻法論略　完

岡山縣知事千阪高雅君撰序

山陽新報主筆　同書記官高津暉君序書

（正價郵稅共代金六十錢）

洋裝美本帋數百九十八ページ

附　佛國婚姻法綱領釋義及批評

右ハ歐米各國ノ婚姻法主義ヲ參酌シテ我帝國ニ通用スベキ婚姻ノ資格方法順序離婚別居ノ習慣法律財產所有ノ權利義務等ヲ詳論シタル者ニシテ傍ラ佛國民法中婚姻ニ關スル部ヲ委ク譯述シ附錄ヲ以テ其綱領釋義及ビ批評ヲ爲シタル近代ノ傑著ナリ書中日本婚姻制度ノ沿革ノ如キ錦上數點ノ添花トシテ見ルベシ今ヤ男女同權ノ說世ニ行ハレ政府事遠カラズ婚姻法ヲ制定セントス此書蓋シ異日成典ノ東道ニシテ制法以前人民ノ熟知セザル可カラザル者歟且此書ハ政府ノ貴顯民間ノ學士等ヨリ非常ナル稱贊ノ聲ヲ以テ出版ヲ促ガサレタルモノナリ

大坂東區淡路町二丁目十三番地（日野商店內）

出版發賣　帝國印書會社

大賣捌書林大坂備後町梅原龜七●東京通三丁目丸善●備前岡山西尾●藝州廣島早速社

價	
一ヶ月分女學雜誌代價十五錢	府外ハ十八錢
二ヶ月分同　三十錢	府外ハ三十六錢
三ヶ月分同　四十五錢	府外ハ五十四錢
半年分同　八十八錢	府外ハ一圓六錢
一年分同　一圓六十錢	府外ハ一圓九十六錢

……册。一圓卅錢郵稅。卅錢（同前）

廣告（廿八字詰）

一行一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町（大賣捌）	巖々堂
東京神田區雉子町	國々社支店
同　神田區佐柄木町	東海堂
同　日本橋區新葭町	良明堂
同　日本橋區馬喰町二丁目	自由堂
同　京橋區木挽町壹丁目	萬字堂
同　本郷區元富士町	盛春堂
同　本郷區春木町二丁目	解明堂
同　牛込區肴町	活神堂
大坂備後町四丁目	岡島支店
伊勢國松坂白粉町	家里初枝
東京芝西久保櫻川町（支局）	萬春堂

發行所

本局　東京本郷弓町壹丁目廿番地　**女學雜誌社**

持主兼編輯　巖本善治

印刷　森田豐

WOMEN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.06 six m... ths, *yen* 1.96 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwam... at Jogaku-Zasshi-sha, No. 20 Yumic... Hongô, Tôkyô.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY